

体育館落成に思う

理事長 望 月 日 雄

身延山の学校は体育に關しては、永年の間殆ど申訳け程度の体育しか出来なかった。これも施設が全然なかったから仕方なかったが、柔道だけは相当一生懸命に稽古をしていた。然しその稽古はちょうど芋を洗う様な有様だったから稽古らしい稽古は出来なかった。昭和三十八年にオリンピックが日本で開催されることが決定するや体育は日に月に振興した。

オリンピック後も政府は体育に力を注ぎ又國民も体育に憧れる者が多くなり各種の競技は盛になった。

右の様な社会状況により身延山大学当局並に学生は体育館の建設を熱望されたが、当時の本山としては諸種の事情から残念ながら建築することは出来なかった。

私は身延山の学生に学生らしい若さや、明朗な精神に欠けて居るのは、行学二道の修行に専念して居るため、スポーツ精神がない事に原因して居るのではないかと杞憂して居た。

昭和四十一年十月大学の校舎・講堂が新築されるや復々体育館建設が再燃したがこの時は建築の可能の見通しもつき、殊に全国御信者並に同窓の和身会の各上人方の御丹精もあったので、学校、学生等に建築を約し一昨四十四年春季に着手、秋の文化の日迄に無事完成したのである。

最近体育の時間や放課後に、学生達の大きな掛け声が体育館から響いて来るのを聞くと、何となく嬉しく且つ心の安まる思いがする。

丁度外に遊んで居る子供の声を聞いて親が安心する様な心境である。

今年の十一月文化の日に体育館落成記念として柔道の大会を開催した。この大会に對しては兵庫県の同窓小平慈悦師の斡旋により来賓に八段依田徳藏先生を招聘され、山梨県柔道連盟会長八段浅川源澄先生と共に、古式に則る柔道の凡ゆる型を約一時間披露されたが、規律の正しい厳肅なる動作に満場寂として声なくその演技に只々感服された。引統いて山梨県柔道連盟理事長河野友男先生の審判長の下に、山梨大学、都留文化大学、大月短大、本校等の對抗試合が行なわれ、体育館落成記念としては実に有意義な催であつたと喜びに堪えない。

因みに体育館工事に就いて簡単に御報告致します。

一、面 積 六四四・九二㎡（一九五坪〇九）

一、構 造 鉄骨建築

イ、器具室 ロ、控室 ハ、更衣室

ニ、便所 ホ、湯室 ヘ、プロパンボンベ室

一、建築費 総額金二千五百五十万円也

一、工事請負者 佐伯建設工業K・K

以上

（身延山久遠寺総務）